

<ジュエリーの役割>

前回のとは別視点でジュエリーを見てみよう。ジュエリーを着ける時は行先の環境、相手等で選ぶことも多いと思う。そんな役割の一つに“身分証明書”というのがある。特に海外ではそれが有効に働いてくれる。シマダは海外の目的地にあわせて衣類を選ぶ。お洒落のためではない。危険に遭わない身の安全のため。その土地に馴染み紛れてしまう服。そのせいか道を尋ねられることもよくある。お洒落して着飾ったりすると“このアジア人、金持ちかも”と標的にされ危険に遭遇することもある。安全に慣れている日本人は警戒心も薄い。私はちゃんとした真つ当な人間ですよ、と認めてもらうためのジュエリーということかもしれない。その類いの経験は幾つもある。香港で巨大規模の国際ジュエリーショーがあり、世界中から多くのバイヤーが集まる。ある時、友人とぼったり会いランチしようか、ということに。会場建物内のレストランで“二人で席ありますか。あの席がいい”と広いレストランの海を眺望するアーチ型の大きな窓に面した所を指さすと、どうぞ、と案内される。席について同行の友人曰く、“ちょっと前、ここで席がないと断られたばかり”と言い、更に“君のそのジュエリーが効いたんだよ、きっと”と言われた。



ハート型のグリーンガーネットを支えるのはホワイトとゴールデンのバロックパール
カッコ良い大人のリング

<美容院を楽しむ>

シマダの髪の毛はくせ毛、量も多い。乱雑に広がるので纏めるしかない。努力もしないので、旅先で時折カーラーなど持参、使用する友人を見て驚く。こんな事するものなのだ、と。この難題を解決してくれる美容師に出会ったのは20年程前。パーマも要らず、時折カットとケアするだけ。勿論技術は素晴らしく、時間もかからない。創りすぎない、風が通るような状態が好き、というのをほほ叶えてくれる。話していると同郷。時折海外のステージでデモンストレーションもする。更に店内のつくり方、雑誌など本の内容も素晴らしい。内装も本選びも自分でする。シマダは女性雑誌が楽しくないので手にしない。この店にはモノクロの不思議かつ魅力的な分厚い写真本等がありそれも楽しい。更に店内のスタッフを見ているだけで脳が楽しく刺激される。これからは、もっと来てキレイになる努力をしよう！とは一時的な決心。甲府に戻れば美容、お洒落ズボラ人間に戻るも、魅力満点の美容院である。

<歳を増す程にカッコイイ>

との印象は海外に出る度に感じる。若い世代は将来に向けての自分にかけているのでお洒落は後回し。充分歳を重ねた大人は人間性と共に個性もしっかり持つようになる。それはファッションにも現われる。爆発したかのような燃えるような、ど派手ファッションの高齢女性をN. Yで見かけて驚くのと、この歳ならではの表現に乾杯したくなる。若い人がこれをしたってどうってことはないのだ。また、ドイツの空港で見かけた旅行中の母娘。娘二人は普通。母が凄い。きりりとしたカオに白い髪を束ね黒の上下服。右手中指に大きな黒のリングがこれでもか!という位カッコイイ。両耳も黒だった。彼女らは立派な服を着たお金持ち、との印象はない。好きなものを着ている結果なのだと思う。年齢で培われた個性が充分に実ったの結果で若い世代はここまで表現できない。せめて衣服も褒められる事位でしかない。日本人の大人の女性もこの位の個性表現が出来たら街を歩くのもグンと楽しくなるだろう。



<イサム ノグチという人>

初台でのイサムノグチの美術展。作品は断片的には見ていたが、その広範囲に亘る作品（和を感じる照明具、家具、書、絵画、更に有名な石による造形とそれを含む庭園設計）を見ることによって内側の人の存在を強烈に感じる。内なるものの離反性。傲慢であり繊細、孤独にして平和、不信と慈しみ、親しむ。相反する要素が絡み合い



静かに日本的でありながら固く閉ざし豪胆。いくつものカオを持つのも、不幸な出自（二国間の出生による確かな帰属性のない不安と孤独等）の環境故とを感じる。藤田嗣治もフランス人にも日本人にもなれず帰属を認められない（最後はフランス国籍を取りレオナルドフジタとなり、カトリックの洗礼を受けて神に認められる）人がいた。確かな帰属性を認められない孤独と不安はそれ程に大きなものとする。

<この歳だからこそ考える事の数々～アトリエBiz講座>

流行とは別の本当の自分らしいお洒落を考える

- No.1 ファッション&コスメ
- 2 自分らしさのつくり方
- 3 海外を参考に考える事

*開催日程など郵便でお知らせします

